



ふじもとともこ
藤本智子

にほんきょうさんとうつしぎだん
日本共産党津市議団

黒字になった国保料の引き下げを

問 平成28年度に21%もの大幅値上げを強行した国保料は、前提としていた一般会計からの繰り入れが行われていないが、約8億2,000万円の黒字となっている。集めすぎた国保料を引き下げるべきではないのか。また、平成30年度からの広域化に向け、安定運営が求められるが、広域化後も一般会計からの繰り入れを行い、国保料をこれ以上値上げせず運営すべきでは。

答 平成28年度の結果を受けて直ちに保険料の引き下げというのは、制度の仕組みからすると難しいものと考えます。

また、国民健康保険事業会計は独立採算を原則とする特別会計であり、一般会計からの繰り入れは、国保被保険者以外の方の負担を強いることにもなることなどから、広域化を機に、計画的・段階的な繰り入れの消滅、解消の取り組みが国や三重県から求められている。

今後も引き続き、保険料収入の確保や医療費の適正化に努めるとともに、今回の補正予算で積み立てる国民健康保険事業運営基金を活用しながら、一般会計からの繰り入れを要しない財政運営に努めていく。

●その他の質疑・質問●

○必要な人が安心して利用できる介護保険制度に

●保険料の段階を広げ、所得に応じた保険料設定を

○希望する人が保育所に入れるように事業計画の見直しを

○学童保育所への支援強化を

●運営事務への支援、指導員の処遇改善、福祉との連携強化を

○働きやすい市役所に

●臨時職員の処遇改善を など



▲今年度当初も137名が入れず増設が求められる保育所



にしやま
西山みえ

けんとう
県都クラブ

ため池266カ所分のハザードマップの活用を

問 市内のため池266カ所分のハザードマップの作成は、住民に不安を与えるものではなく、安心を得るためのものであり、万が一、集中豪雨や大規模地震等が発生した場合に、迅速かつ安全に、タイミングよく避難行動を取ってもらうための判断材料として、活用していただくことを目的としていると考える。

マップ作成のスケジュールと、作成後の住民への説明は。

答 スケジュールとしては、今回の補正予算の議決後、作成業務を発注し、10月と11月に1回目のワークショップを各地域で開催し、地域の実情や、ため池の現状を聞き取る。それと並行して、浸水想定地域等の解析や現地踏査を進め、順次2回目のワークショップを開催し、浸水想定地域や被害想定などの説明を行う。全てのマップの完成は、平成30年3月末の予定である。

マップの作成後は、地域での学習会、防災訓練等の機会に、マップを活用し、日頃から一人一人が自ら避難することを考え、台風等による集中豪雨等の際には、地域の実情を認識した上で、浸水想定地域外の指定緊急避難場所や指定避難所へ早めの自主避難をしていただくよう、啓発・周知を図っていく。

●その他の質疑・質問●

○津市の観光振興施策について
●ハード面、ソフト面のおもてなし施策は

●中心市街地として「続日本百名城」認定後の活用の考えは

○子どもを取巻く貧困について

●県政要望の未就学児窓口無料化から、安心して生活できる、家庭への支援等の考えは

○高齢者等の見守りについて

○病後児保育の考え方について



▲「続日本百名城」に認定された多気北畠氏城館のポスター